



「犬山」・小牧・長久手の戦い

【NHK大河ドラマ・どうする家康】

みなさん、観られていますか。「どうする家康」で小牧・長久手の戦いでの犬山がどう表現されるのか楽しみにしていました。数十分でも放映されればとの思いでしたが、何と第31回（8月13日）・第32回（8月20日）の2話にわたって小牧・長久手の戦いが展開されていきました。そこには、犬山城も楽田城も羽黒も、そこに関わる戦国武将の名も描かれていました。秀吉方の池田恒興による犬山城攻略の開戦から、犬山城が占拠されて、小牧・長久手の戦いへと歴史物語が進み、もう目が離せませんでした。

【どうする家康を活かした事業】

3月には犬山合戦帳を無料配布して「三種の御城印」犬山城と羽黒城、楽田城のスタンプラリーを実施しました。7月に開催した城郭考古学者の千田嘉博先生による「犬山城の魅力と小牧・長久手の戦い」と題した講演会は大盛況でした。また昨年度開講した、市民総合大学の講座「小牧・長久手の戦いと犬山」の講義録を発売します。さらに広域的な取り組みとしてゆかりのある近隣10市町と締結した「小牧・長久手の戦い同盟」では、犬山市からの発案で「オリジナル フレーム切手」を発売し、10市町の首長と日本郵便の方に犬山市役所にお集まりいただき、オリジナル フレーム切手発表記念セレモニーを8月に行いました。



▲「オリジナル フレーム切手」サンプル

【これからの展開】

江戸時代の歴史家の頼山陽は、こう評しました。「公（家康）の天下を取る 大坂にあらずして関ヶ原にあり。関ヶ原にあらずして小牧にあり」と。つまり、家康が天下人までに上りつめたのは、小牧の家康と犬山の秀吉が唯一、直接、対峙した小牧・長久手の戦いにあると記しているのです。だから小牧・長久手の戦いは、「犬山・小牧・長久手の戦い」だと個人的には思っています。そんな思いで、「どうする家康」の放映を大いに活かしていきます。

犬山は歴史文化のデパートです。犬山はお城や武将、合戦の宝庫です。実際に自分で訪れて、自分の目で確かめることができます。これも犬山の魅力です。お城には合戦などの歴史の物語があるのだから、その複数の物語を一つのストーリーに結んで、もっと魅力を高め、地域の活性化や周遊観光につなげていきます。

「歴史文化を生かしたまちづくりで…犬山を前に進めます」